

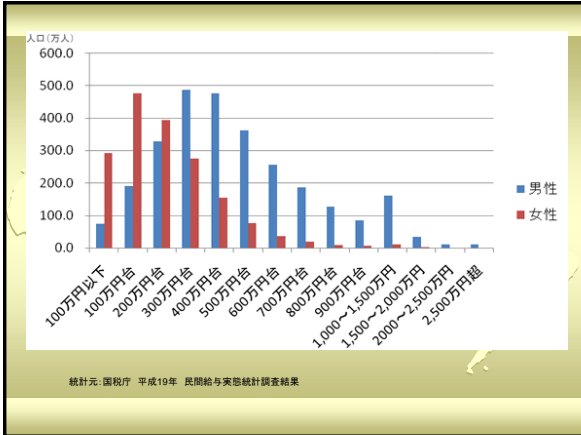
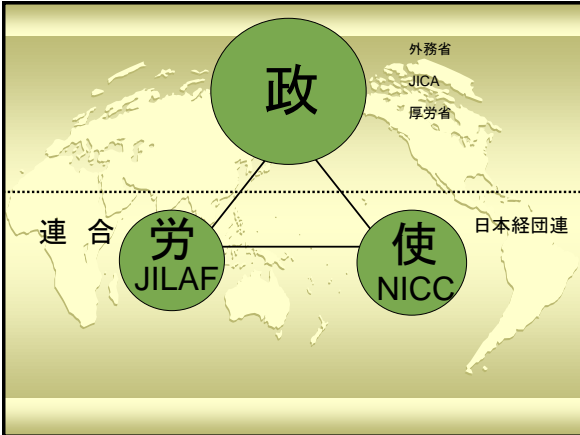
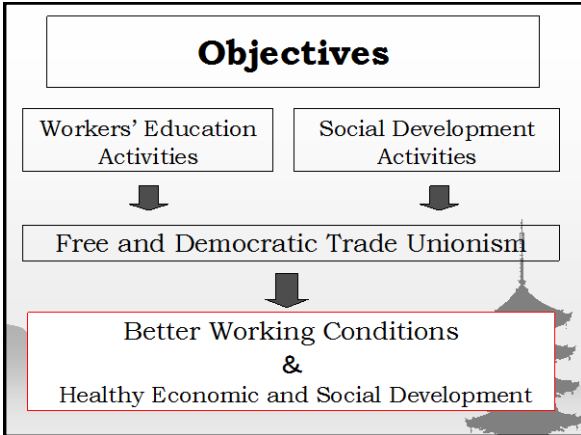


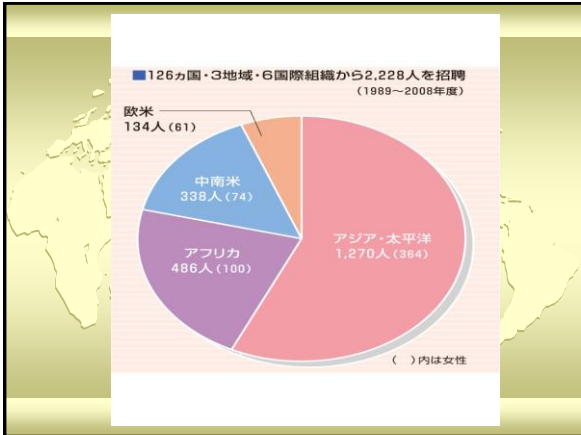
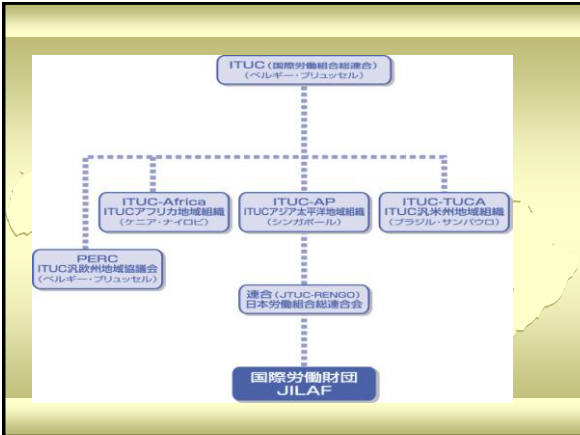
国際労働財団とは

- 1989年設立
- 連合によって設立された国際協力組織
- 設立時に連合(加盟産別)が基金を拠出
- 非政府組織(NGO)
- 予算: 約5億円 (70%がODA、30%が自主財源)

JILAFの主な事業

- 招聘事業
- 現地支援事業
- 調査、広報、教育活動他



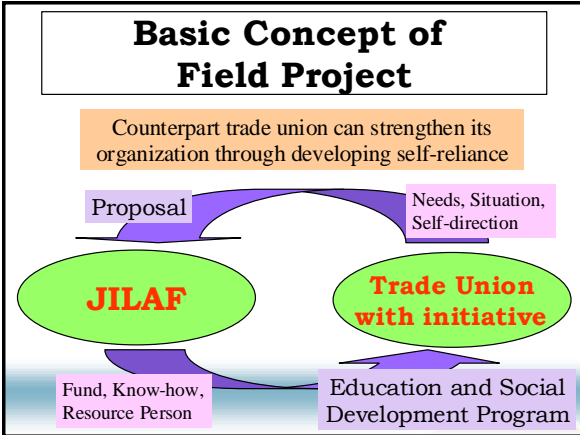


■ 現地セミナー実施回数・参加人数

年度	対象国・組織数	セミナー実施回数	セミナー参加人数
1994年	5カ国・8組織	32回	1,365人
1995年	6カ国・9組織	84回	2,697人
1996年	7カ国・10組織	101回	2,958人
1997年	9カ国・1地域・13組織	208回	6,149人
1998年	14カ国・1地域・18組織	205回	5,392人
1999年	15カ国・1地域・18組織	239回	7,971人
2000年	14カ国・1地域・18組織	211回	6,747人
2001年	15カ国・18組織	241回	8,928人
2002年	14カ国・19組織	290回	9,006人
2003年	9カ国・12組織	252回	8,126人
2004年	10カ国・12組織	343回	9,264人
2005年	13カ国・16組織	277回	7,825人
2006年	12カ国・17組織	106回	2,915人
2007年	9カ国・10組織	75回	1,929人
2008年	10カ国・11組織	53回	1,338人
合計		2,717回	82,610人

Our Counterparts in the Field Projects

- Bangladesh (ITUC-BC)
- India (INTUC)
- Indonesia (CITU)
- Mongolia (CMTU)
- Nepal (NTUC-I)
- LAOS (LFTU)
- Pakistan (PWF)
- Philippines (TUCP)
- Thailand (ITUC-TC)
- Vietnam (VGCL)
- East Timor (TLTUC)
- ITUC-AP
- China (ACFTU)*



The Field Project Programs

Workers' Education Activities

- Industrial Relations and Employment Stability
- Leadership Training
- Organization
- Collective Bargaining
- Occupational safety and health (POSITIVE)
Participation-Oriented Safety Improvements by Trade Union Initiative

労組基礎教育セミナー

新しくできた国、新しいナショナルセンターと新しくはじまった労働運動にとっては、「なぜ、労働組合が必要なのか」「どのようにして自由にして民主的かつ自主的な労働組合を組織するのか」「団体交渉の方法や労働協約の締結方法」などの労働組合の基礎について、組織内での共通認識を高めることが重要です。

セミナーでは、組織強化や組織固めを第一の目的として、①労組の役割と必要性②組合規約③ビジョン・ミッションと具体的な達成目標④組織体制⑤当面の課題⑥女性委員会や青年委員会の活動紹介——等、基礎教育中心の講義とグループ討議を中心に進められます。



組織化セミナー

新しい労働組合を作り、組合員を増やすことは、労働組合にとっても重要な活動のひとつです。

ベトナムでは法律により、すべての企業が労働組合を設立することが義務づけられています。しかし、現実には労働組合がない企業や、活動していない組合の実態があることから、企業の従業員や労働組合の組織化担当を対象に組織化セミナーを開催しています。2007年度のセミナーでは、ハノイ市郊外の工業団地にある日系企業の労働組合役員などを対象に、日本の労使関係や組織化、組織強化の経験を紹介しました。参加者が働く日系企業での労使関係向上を目的に、企業を訪問するとともに、経営者に対して労働組合結成や労働組合活動に対する理解と協力を要請しました。



女性セミナー

国によっては、男女という性の違いだけで、①希望の職種に就けない②賃金に差がつく③職場で差別を受ける④男女平等に関する法律がない——等の問題を抱えており、ジェンダー平等の概念は、労働組合が果たすべき重要な課題のひとつです。

パキスタンでは、宗教上の理由もありますが、慣習的に女性は外に出て働くべきではないという考えが根深く残っており、家事労働や子どもの世話をする女性が大半を占めています。セミナーでは、パキスタン労働者連盟(PWF)をカウンターパートとし、社会や職場、家庭レベルで女性の抱える問題や女性が持つ権利と労働組合の役割を学ぶ機会を提供し、参加者同士でジェンダー分析を行います。今後、どのようにして課題解決をしていくのか論議し、労働組合の組織強化にもつなげています。



児童労働撲滅のための 学校プロジェクト

- ILOの統計によると全世界では、5～14歳までの1億6,000万人以上の子どもたちが児童労働に従事しており、このうち約1億人はアジア太平洋地域で占められています。JILAFは児童労働対策を推進するために、現地のナショナルセンターであるインド全国労働組合会議 (INTUC)、ネパール独立労働組合会議 (NTUC-I) と協働で非正規学校を運営し、児童労働に従事している子どもたちに基礎的な教育を受ける機会を提供するとともに、公立学校への編入を進めています。この学校プロジェクトでの卒業人数と公立学校への編入率はネパールで7,010人・85%、インドで291人・80%となっています。

Non-formal schools for child laborers in Nepal and India



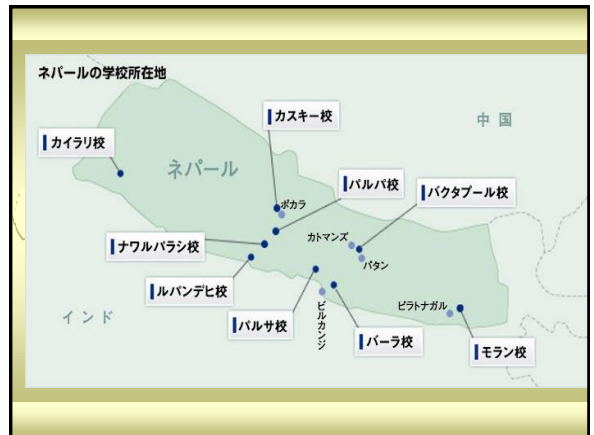
マーカプール校卒業生 ジャガナダン・クマリー



私の家は非常に貧しかったため、学校に通うこともできず、オレンジ農場で働かされていました。

しかし、JILAFが支援しているマーカプール校に通うことができ、農場で働かずに勉強することができました。JILAF校に通うことができなかったら、私に教育を受ける機会は訪れなかったと思います。

昨年は公立学校に編入することができましたが、JILAF校の先生の方が優しく、生徒が理解するまで熱心に教えてくれます。私の将来の夢は、JILAF校の教師になることです。



バクタプール校教師 ラッチミ・ソバ・プラジャパティ



私がバクタプール校の教師を引き受けて10年の月日が経過し、数多くの子どもたちがバクタプール校で学び、卒業しました。卒業とは公立学校に編入させることであり、卒業生たちは公立学校でも熱心に勉強を続け、上級学年に進学しています。読み書きのできなかった子どもたちが、はじめから公立学校に通っていた生徒以上に優秀な成績を修めていると報告された時が、教師の仕事を引き受けて良かったと思える時です。開校当初は、地域社会から信頼を得られず、公立学校に通うことのできない子どもたちを集めることに大変苦労しましたが、今では入学希望者が多く集まってきます。貧しく、公立学校に通うことのできない子どもたちに教育の機会を与えているJILAF校で教師をしていることを誇りに思います。

POSITIVEプログラムとは

(Participation-Oriented Safety Improvements by Trade Union Initiative)

- 労働組合主導の参加型労働安全衛生トレーニング
- “POSITIVE”な考え方
(3つの良い点、3つの改善点を見つける)
- 簡単で、低コスト、効果的な改善
- 労働者、経営側が一体となって改善に取り組む
→ 良好な労使関係の構築を促進する
- 良い改善事例を学ぶ
- トレーニングを受けた労働者が新たなトレーナーとなって、改善活動の輪を広げる

POSITIVEプログラムの目的

労働組合主導の参加型安全衛生向上プログラム

1. 職場の改善、労働災害の減少

労組主導の労働安全衛生プログラムにより、経営者ではなく、労働者の視点から現状にあった安全衛生活動をし、労働者やその家族を労働災害から守る。

2. 労使関係の改善

労働安全衛生の促進は労使双方の利益、お互いが協力することで、労使間の対話の機会を増やし、関係の改善を図る。

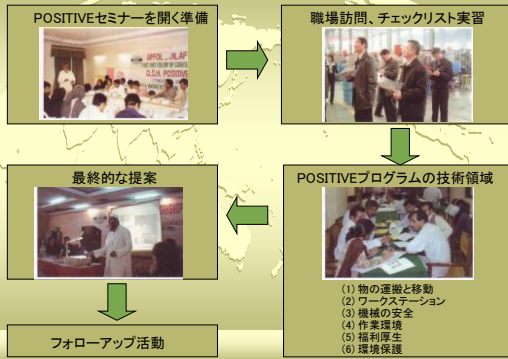
3. 労働者の意識改革

労働者自身で考え、行動することにより、労働者の自信を高め意識改革を図る。

4. 労働組合の組織強化

共にプログラムに参加することにより、労働組合員のネットワークを構築し、非組合員へのトレーニングを通じ、労組の役割理解、組織結成、組合加入を促進

POSITIVEプログラムの流れ



作業改善アクションチェックリスト

Action Checklist (2014-Nov. 2008 POSITIVE Program)

How to use the checklist
1. Define the work area to be checked. In the case of a small enterprise, the whole production area can be checked. In the case of a large enterprise, produce work areas can be selected for inspection.
2. Fill in through the checklist and spend a few minutes walking around for work area before starting to check. Mark each item checked. Circle the area to apply the program. If necessary, add notes regarding the message or remark. If the message has been applied or it was marked, mark NO under "Do you improve action?". If you mark the message as a checklist, mark YES. Use the space under "Remarks" to put descriptions of your suggestions or actions.
3. After you have gone through the whole area, walk again at the area you have marked YES. Check if there were other the message area. Study to be the same repeated. Mark PROGRESS for the future.
4. Before finishing, make sure that the each item you have marked NO or YES, and that for the same item marked YES you have marked PROGRESS.

A. Materials Handling

1. Check each workplace area.
Do you improve action? [] Yes [] No [] Progress
Remarks: _____

2. Provide work load, distance or weight info: use the work area for work, use materials, open air products.
Do you improve action? [] Yes [] No [] Progress
Remarks: _____

3. Provide a correctly placed fence for each tool.
Do you improve action? [] Yes [] No [] Progress
Remarks: _____

ポジティブトレーニング 作業改善アクションチェックリスト

このアクションチェックリストは、JILAFプログラムに基づき、労働安全衛生向上プログラムの一環として開発されています。
1. 職場の改善、労働災害の減少、労働者の視点から現状にあった安全衛生活動をし、労働者やその家族を労働災害から守る。
2. 労使関係の改善、労働安全衛生の促進は労使双方の利益、お互いが協力することで、労使間の対話の機会を増やし、関係の改善を図る。
3. 労働者の意識改革、労働者自身で考え、行動することにより、労働者の自信を高め意識改革を図る。
4. 労働組合の組織強化、共にプログラムに参加することにより、労働組合員のネットワークを構築し、非組合員へのトレーニングを通じ、労組の役割理解、組織結成、組合加入を促進

A. 荷物の運搬

1. 職場の改善、労働災害の減少、労働者の視点から現状にあった安全衛生活動をし、労働者やその家族を労働災害から守る。
Do you improve action? [] Yes [] No [] Progress
備考: _____

2. 作業量、作業距離、作業重量に関する情報を提供し、作業エリアを明確にする。
Do you improve action? [] Yes [] No [] Progress
備考: _____

3. 各作業機に適切なフェンスを設置する。
Do you improve action? [] Yes [] No [] Progress
備考: _____

ベトナムにおける改善事例

Before

After



技術領域:物の運搬と保管

ベトナムにおける改善事例

Before

After



技術領域:作業環境

ベトナムにおける改善事例

Before

After



技術領域:環境保護